

1 市民の活動による地域の活性化

- (1) 市内の市民活動団体及びNPO法人の数や関わる人数の推移と評価を伺う。
- (2) 市民活動に関心を持ち、「活動する市民」を増やすための現状の取り組みや課題を伺う。
- (3) こども・若者の市民活動への参加促進を図るための中で、中学生ボランティア参加者、ヤング草莽塾参加者、成人式参加者等を将来の「活動する市民」へつなげられないか、考えを伺う。
- (4) 地域で活動する地域づくり協議会や自治会等の「協働のまちづくり」への位置づけについて考えを伺う。
- (5) 協働のまちづくり提案事業の現状と課題を伺う。また、これまでの事業や提案団体のフォローの状況を伺う。
- (6) 市民の活動団体の初期支援の取り組みについて、現状と課題を伺う。
- (7) 行政が抱える課題解決に向けての取り組みや、担当間の隙間を埋める取り組みを活動団体が展開してくれたら、市民の活動のさらなる推進が図れると考えるが、行政による他地域の市民の活動の研究状況や、市民への情報発信を伺う。
- (8) 今後さらに地域活動や市民活動を活発にする取り組みへの考えを伺う。

2 福田漁港エリアの活性化

- (1) (仮称)「海辺の交流館」の基本コンセプトを伺う。また「渚の交番」が入り、機能が追加されることにより、コンセプトや建物の仕様に変更はあったのか伺う。
- (2) (仮称)「海辺の交流館」及び「渚の交番」の運営方法を伺う。
- (3) (仮称)「海辺の交流館」の収益計画を伺う。特に、収入に当たるテナント料や補助金、費用に当たるランニングコストにおける詳細な見通しを伺う。
- (4) 当該施設ができることによる地域への影響や、既に出ている声があれば伺う。
- (5) サーファーや釣り人、砂浜を楽しむ方など、現利用者たちの声をどのように活かしているのか伺う。
- (6) 施設の名前は今後どのように決めていくのか伺う。
- (7) 「ふくっぱ」やその他の施設との、管理運営における関連を伺う。
- (8) 福田漁港エリアの目指す未来像をどのように捉えればよいのか伺う。